

第2回松山市総合計画審議会議事録

日 時	令和6年5月16日（木）午前10時00分～午前11時40分
場 所	松山市役所別館6階 第3委員会室
出席者	14ページ参照

1. 開会

2. 議事

（1）第1回審議会の総括

檀会長

- ・ 議事の「第1回審議会の総括」について、事務局からご説明をお願いします。

事務局

（事務局説明）

檀会長

- ・ この件に関しまして、何かご質問やご意見がございましたらお願いします。

一同

（質疑・意見なし）

（2）まちづくりの方向性「人がつながる」

檀会長

- ・ つづきまして、議事の2点目として、「まちづくりの方向性」についてです。「まちづくりの方向性」は、「人」、「まち」、「仕事」の3分野ありますので、今回と次回の計2回を使い、審議していく予定です。
- ・ 本日は「人」と「まち」を、次回は残りの「仕事」を審議したいと思います。
- ・ 「まちづくりの方向性」は前回審議会で本文記載の内容について、事務局から概要を説明いただいておりますが、本日は「まちづくりの方向性」について、市民や有識者などから寄せられた意見を紹介いただきます。
- ・ それでは、よろしくお願いします。

事務局

（事務局説明）

檀会長

- ・ まず、「まちづくりの方向性」のうち、3ページから4ページまでの「人がつながる」について、何かご意見、ご質問などがございましたら、お願いいたします

竹下委員

- ・ ①学校教育の4行目に「また、早い時期からのキャリア教育や環境教育ⁱ、ICTを活用した情報活用能力の向上などが進み」とありますが、「環境教育」という言葉だと、対象範囲が狭いと思います。学習指導要領にも記載がありますし、ユネスコなどの国際的な概念としても通用するため、「ESD（持続可能な開発のための教育）ⁱⁱ」の方がよいと思います。

檀会長

- ・ 「環境教育」だと確かにザクっとしているので、持続可能といったキーワードも含めて、もう少し分かりやすくといったご意見でした。

高田委員

- ・ まちづくりの方向性の全体が将来都市像「人、まち、仕事がつながる SETOUCHIの交流拠点まつやま」につながるものだと思いますが、瀬戸内の交流拠点を目指すのであれば、まちづくりの方向性のそれぞれの内容が瀬戸内の交流拠点につながる内容になっている必要があると思います。将来都市像「人、まち、仕事がつながる SETOUCHIの交流拠点まつやま」の要素をまちづくりの方向性に落とし込んだ文章があった方がよいと思います。また、瀬戸内の交流拠点が何なのかという議論が前回途中で終わった気がするので、もう少し議論したほうがよいのではないかと思います。

檀会長

- ・ 「SETOUCHI」について、様々な意見聴取の中で「自然」というキーワードが多かったようですが、「SETOUCHI」「交流」「つながり」といった点が「まちづくりの方向性」の中で見えてくるとよいのではないかと思います。

堀副会長

- ・ 学校教育について、世界としっかりとつながるような内容が入るとよいと思います。現在の表現では、グローバルな社会で活躍できるようにと言いながら、後に続く内容が内向きの内容になっていると思います。せっかく「つながる」というキーワードがあるので、世界のこどもたちと一緒に学びながら、グローバルに活躍できるような教育を目指していただけたらと思います。そのために、何かキーワードを考えていただければと思います。
- ・ ⑦の子育てについて、（資料5）第7次松山市総合計画 政策・施策体系（案）では、012に「切れ目のない子育て支援」という記載がありますが、基本構想では、修学前の子育て支援に重点が置かれた記載になっています。学童に入った後も大変で、松山では病児保育の支援も不十分なので、「切れ目のない子育て支援」というキーワードを入れていただきたいと思います。

檀会長

- ・ 「世界とつながる」と「切れ目のない子育て支援」というキーワードも重要という意見をいただきました。

坂谷委員

- ・ 前回事務局から、あえて「つながる」という状態を表す表現にしているとの説明がありましたが、「つながる」という言葉では漠然としたイメージがするため、つながるとどんなよいことがあって、どんな力になるのかについての説明が必要だと思いました。
- ・ また、「まちづくりの方向性」の中で「人がつながる」というテーマでまとめてありますが、「つながる」に関係のない表現になっている部分があるので、全体的にあいまいな感じがすると思いました。

檀会長

- ・ 「人がつながる」の中に10項目の内容がありますので、具体的にどのような形でつながることを指すのか記載できるとよいというご意見をいただきました。

倉本委員

- ・ ⑧⑨の項目が見方によっては高齢者に傾いた表現に感じられると思いました。「また、定年後に松山にUターン・Iターンする人が多く」とありますが、若者も高齢者も、松山にUターン・Iターンする人が増える状態が望ましいと思いますので、高齢者に限定する必要はないと思いました。
- ・ また、⑩に「こどもから高齢者まで世代間の交流を通じて、「お互いさま」の気持ちで地域を支えています」とあり、重要なことですが、社会福祉分野にしても、昨今は要求するばかりの人が多いいと思います。高齢者や障がいのある方、こども、主婦など様々な立場の方が誰かに対してできることを示すなど、「お互いさま」を少しブレイクダウンできれば、分かりやすくなると思います。例えば、高齢者がこどものベビーシッターをしたり、こどもが高齢者の話し相手になることができます。また、主婦の方が働く家庭のためにできることがあり、障がいのある方であっても誰かのためにできることはあると思います。「お互いさま」だけで終わらせるのではなく、将来的には、まちペイの利用などにより、そういった取組を促進する制度ができるとよいと思います。

檀会長

- ・ 「お互いさま」について、どのように高齢者やこどものつながりができるか、WIN-WINの関係になるように分かりやすく表現してはどうかというご意見でした。次期総合計画では、分かりやすさが大きなテーマになるので、そのような点が表現できるとよいと思います。
- ・ 定年制度が変わってきており、大学生には、東京の会社で、フルリモートで働ける会社の人気が高く、松山に住みながら東京の会社に就職する人もこれから増えてくると思います。既存の概念に捕らわれることなく、生活の進化を踏まえた記述にすることが大切だと思いました。

岩田委員

- ・ ⑦に「就労環境」という言葉がありますが、就労環境は厚労省が管轄だと思います。市が主体になって進めるべき事業と、国や県などが主体となって進めていく事業が混在しているのではないかと思います。例えば「まちがつながる」では、松山空港に関する記述がありますが、松山空港は県の管轄だと思いますので、整理が必要だと思います。このような書きぶりにする

のであれば、他機関や関係省庁との連携を図るといった内容をどこかに記載した方がよいと思います。

檀会長

- ・ 他機関との連携について、事務局から何かありましたら、説明をお願いします。

植田副部長

- ・ 前提として「まちづくりの方向性」は、松山市が10年、20年後にこうなっていたらよいという理想の姿を表しています。例えば四国新幹線などは、松山市だけで進められるものではなく、国や県、四国・関西も含めた自治体、JRなど企業を巻き込んで進めていく必要があります。先ほどご指摘のあった「就労環境」についても、松山市だけでなく、県や民間企業の経営者の方の努力もあって、実現するものだと思います。次の総合計画は、松山市が何をするかについて記載したものではなく、松山市の未来の姿を描いた上で、携わるステークホルダーの皆さんも含め、それぞれの立場で目指していこうとするものです。そのため、松山市以外の管轄の内容も含まれています。

檀会長

- ・ 確かに新幹線など、他機関と連携して環境をつくっていくものですね。

橋本委員

- ・ 事務局から、未来の理想の松山市について、市民からは「自然」という意見が多かったとの説明がありましたが、その割に「人がつながる」の①～⑩の中に「自然」を通じて「人がつながる」という内容が入っていないため、追加した方がよいと思いました。「自然」については、私も住んでいて松山のよいところだと思っています。
- ・ また、「観光客との触れ合い」についても市民の意見があったので、加味してはどうかと思いました。

檀会長

- ・ 「自然」や「観光客」を通じた人のつながりについてポイントになるというご意見でした。

高須賀委員

- ・ ①の学校教育について、「今後さらに複雑で多様化する社会の変化」と記載がありますが、我々のこども世代は私たちが経験したことがない社会構造の中で生きていくことになります。そのような中で、できるだけ世界や都市との情報格差を埋めた、フラットな松山市の姿という文言を追加してもよいのではないかと思います。
- ・ また、③について、松山市は四国の他都市と比べて、若者の数が多いと思いますが、若者たちが集まって情報交換をするような居場所がないと感じています。PPPⁱⁱⁱを活用した民間との協業や〇〇も有効に門戸を開いて、そこに集まる人づくりをしていければよいと思います。
- ・ 都市とのギャップをなくすためには、アーティストやデザイナー、建築家などのクリエイティブな仕事で活躍しやすいまちづくりについての記載があってもよいと思います。そういった

仕事では世界との垣根やギャップありませんし、世界に松山市を高く売るようなジャンルの構築につながるのではないかと思います。

檀会長

- ・ シームレスなまちづくりをする上で、クリエイティブな仕事をする方の働く場所となることが重要というご意見をいただきました。

井口委員

- ・ 「人がつながる」の③・⑤について、どちらかと言えば③は、様々な人とのつながりが個人の成長につながっているという話で、⑤は個人の出会いの場に重点を置いた表現になっていると思います。⑤で「大学や異業種など、組織の垣根を越えて交流」というように連携の対象を限定した表現になっている点が少し気になります。前回の well-being に関する重要な指摘として、若い世代の方が人とのつながりを大切にしていけないと、出会いが限定されるというお話がありました。⑤の前後の項目は、若者の定着や結婚・出産という流れになっているため、もう少し対象を広げて記載してはどうかと思います。
- ・ また、「まちがつながる」の⑦では、趣味で様々な人と交流することが書かれています。一方で、「人がつながる」の③では、様々な人が交流することで地域の愛着を深めることについて、⑤では、ビジネスにつながる交流について記載されています。この3点が well-being に関する内容だと思いますが、⑤のみ対象を限定した表現になっているため、もう少し対象を広げると、様々な垣根を越えて交流することが大切であるという文章になるのではないかと思います。

檀会長

- ・ Well-being の観点からご意見をいただきました。

（３）まちづくりの方向性「まちがつながる」

檀会長

- ・ それでは、次に、「まちづくりの方向性」のうち、４ページから５ページまでの、「まちがつながる」について、何かご意見、ご質問などがございましたら、お願いいたします。

高田委員

- ・ 重ねて、瀬戸内についてですが、「まちがつながる」の部分こそ、将来都市像の瀬戸内の交流拠点を打ち出せるところだと思っています。松山市の総合計画ですので、瀬戸内の交流拠点としての覚悟やリーダーシップを発揮し、拠点としてつながっていくことを明記した方がよいと思いました。特に交通や文化・スポーツ分野について、単独で整備することが難しいのであれば、他の拠点とどのように連携していくかを明記して覚悟を打ち出すべきではないかと思っています。

檀会長

- ・ 将来都市像の「交流拠点」について「まちがつながる」の部分でどう打ち出していくかという

意見をいただきました。

堀副会長

- ・ 細かい表現についてですが、③の「早期にまちを復旧・復興することができるよう」の前に「災害時に」という言葉を入れるとよいと思います。

檀会長

- ・ どのようなシーンなのか、分かりやすくなると思います。

松村委員

- ・ 全体的によく書けているとは思いますが、中心市街地対策の大切さをもっと打ち出すべきではないかと思います。⑨で「それぞれの地域が持つ魅力や特性をいかしたまちづくり」とありますが、中心部がしっかりしていないと、それぞれの地域をつなぐこともできないと思います。現在、ＪＲ松山駅周辺や松山市駅前整備が進められており、行政なども含めた市内中心部の建て替え、銀天街の再開発事業など、松山が大きく変わろうとしています。現在の変容は今後３００年、４００年は変わらないほどの大きな転機だと思いますので、中心市街地の活性化や商業の賑わいについて、もう１つ項目を追加した方がよいと思います。
- ・ また、市民から多く挙げられた「自然」については⑥の「緑豊かな都市空間」でしか読み取れないため、もう少し打ち出した方がよいと思います。「緑」について、中心部は堀之内公園がありますが、郊外では、農地を含めて豊かな緑などの資源がありますので、そういった点にも言及するとよいと思います。
- ・ さらに「緑」だけでなく「川」についての記載も必要だと思います。松山市には石手川、重信川などの豊かな恵みもあり、その内容を踏まえた方がよいと思います。「生態系ネットワーク^{iv}」と言われたりもしますが、生物多様性という観点からすると、人間同士だけでなく、生物同士がつながっていくことも大切ではないかと思います。
- ・ 自転車の話があまり書かれていないと思いました。道後へ観光に来た方が自転車で石手川の周りや離島を巡るなどの活用ができると思います。そういった松山の多様性を踏まえた記述が弱いため、追加した方がよいと思います。

檀会長

- ・ 自転車は環境に優しく、自然を楽しめるというメリットもあります。中心市街地の活性化とともに、「自然が豊か」という市民意見が多くありましたので、川や生物多様性、生態系の項目を追加してもよいのではないかという意見をいただきました。

伊藤課長

- ・ ⑥で中心市街地について項目として特出ししているのですが、活性化という要素が足りないという趣旨でしょうか。

松村委員

- ・ はい。賑わいの視点が足りないという趣旨です。中心市街地の１つの役割として、常に人で賑

わっていることがありますので、もう少し工夫していただければと思います。

- ・ 同時に、郊外についても別で書いて、その後にまちとまちがつながるというところで、道後や離島について書くとよいと思います。
- ・ また、県庁所在地で離島を持っていて、公共交通で行けるというのは松山の特異な地勢だと思いますので、多様な地域と市の中心部が繋がるイメージが伝われば良いと思います。

倉本委員

- ・ 中心市街地に重点を置いてインフラなどの整備を進めることについては、異論はないのですが、私は湯の山に住んでいて、周りの住民は庭の手入れをするなど、緑の豊かさを求めて住んでいる人が多いと感じています。中心市街地を活性化すると同時に、インフラ効率のよい大規模タウンについても、あまり負担を掛けられないような形で整備していくことを、地域の多様性や緑が豊かであることの記述に合わせて、入れていただきたいと考えます。
- ・ また、まちづくりの理念には「一人ひとりの幸せ」として、「幸福」について記載があります。「幸福」は何を指すかという、1つは世界的なものとして国連が「世界幸福度報告」というのを出版していますが、日本では、内閣府の示している、「満足度・生活の質に関する指標」があります。
- ・ 11 指標あって、例えば、家庭や資産、雇用、賃金など大体が網羅されていますが、住環境や身の回りの安心・安全、自然災害だけでなく、犯罪、交通事故なども含まれると思います。市民にとって身近な住環境や安全についての内容を追加してはどうかと思いました。「まちが繋がる」に入れるのがよいかどうかは分かりませんが。

檀会長

- ・ 確かに松山は犯罪が少なく安全・安心ですし、住環境についても大切な観点だと思いました。

橋本委員

- ・ ⑥について、現在の書きぶりだと、中心市街地だけでコンパクトに歩いて暮らせるまちづくりを進めるように見えてしまうと思います。コンパクトシティを踏まえ、中心市街地で、歴史・文化に触れられて、医療体制が整っており、それらが公共交通でつながっているという話だと思いますが、歴史・文化の回遊の話と混ざっていて分かりにくいので、⑨のまちとまちの交流の話と分けた方がよいと思います。

檀会長

- ・ 中心市街地の話があると、必ず周辺部をどう捉えるかという課題があります。松山は中島などの離島があり、分かりやすく情報の整理ができるとよいと思いました。

坂谷委員

- ・ 私も⑤⑥を読んで、「まちが繋がる」については中心部がメインのように感じました。島しょ部の方にもこの計画を見ていただくには、配慮した記載をすべきだと思います。
- ・ 公共交通機関についても、陸の交通手段については記載がありますが、船舶など海の交通手段については書かれていないと思います。また、郊外や島しょ部については交通費や貨物料が高

騰しているとよく聞かため、そういった内容も踏まえて利便性が良くなるという記述があればよいと思いました。

- ・ さらに、「まち」がコミュニティなのか、土地を指すか分かりにくいと思いました。「土地」だとすれば、荒れた土地が増えているので、利用すれば、減災にもつながると思いますので、そういった視点について市民からの意見がなくても、記述があればよいと思います。

檀会長

- ・ 「まち」は空間、都市、場所といった意味合いを持つと思いますが、防災・減災につながるという視点は重要かと思いました。
- ・ 空路と陸路については記載がありますが、水路はないという点や何かあったときに駆け付け手段についての記載など、全体のバランスが重要だと思いました。

井口委員

- ・ 瀬戸内の交流拠点につながる言葉を使いながら、要素を入れるという意見がありましたが、私も「まちがつながる」が一番打ち出せる場所だと思います。
- ・ 打ち出せる場所としては、④の公共交通について、モビリティのターミナルが拠点にならないと線が繋がりませんので、ここに入るのがよいと思います。
- ・ また、⑥には商業の視座が入っており、⑨はまちとまちの交流についてですが、⑥と⑨に拠点がなく回遊できないため、「拠点」という言葉は何回出てきてもよいと思いますので、このあたりに入れるとよいと思いました。
- ・ さらに、⑨について、松山市の総合計画として、離島や山間部などの地域性のある言葉を入れると、すべての市民の皆さんに深いご自身の問題として理解していただけたと考えています。そういった意味では⑨の「それぞれの地域が持つ魅力や特性をいかしたまちづくり」の前に、離島や山間部などの例示をすることで、それぞれの地域がまちづくりを一生懸命進めましょうという内容になります。その上に中心市街地に関する内容が記載されていますので、それに係るようにするのであれば、中心市街地の部分に「都市」や「都市部」などの言葉を入れると、コミュニティや地区、ゾーニングされたまちといった様々なスケールがあるかと思いますが、それぞれの特性をいかしたまちづくりを推進することにつながるのではないかと思います。
- ・ 最後に、瀬戸内という視点は文化圏的にも観光にもあるのですが、域内だけの視野では足りず、外に向けて、様々なまちとつながるという要素が⑨に入ります。新たな賑わいを今後は外から持ってくる必要がありますので、外のまちとつながって賑わいを生むという表現が入ることで、市内のまちとまちだけでなく、外に広がったまちと交流を進めて賑わいを生むという、広域視点を含められて、「瀬戸内の交流拠点」という方向性にも沿うのではないかと思います。

檀会長

- ・ 松山市内でまちとまちがつながるという点、松山市と他のまちがつながるという広がりの中で、瀬戸内の交流拠点を強調できる点、離島・山間部などを明記することで、幅広い地域の取組につながっていくという点に関するご意見でした。「離島」は瀬戸内の分かりやすいキーワードになると思います。

大石委員

- ・ ⑩に、「デジタル技術の導入や活用による、便利で住みやすいまちづくりが進み、その魅力を発信することで関係人口が拡大し、『行ってみたい』『住んでみたい』『住み続けたい』と、国内外から選ばれるまちになっています」とありますが、デジタル技術の導入だけが魅力ではなく、他にも魅力はたくさんあると思います。後半の行ってみたい、住んでみたい、住み続けたいにつなげるには、デジタル技術による魅力だけでなく、「人がつながる」や『「仕事」が つながる』部分も含めて対応していくべきことだと思いますので、デジタルだけではない魅力の発信についても含められるとよいと感じました。
- ・ 「人がつながる」の①に戻るのですが、「グローバル社会で活躍」という言葉に違和感があり、松山から出て活躍するように感じられると思いました。例えば「グローバル社会へ参加できるよう」や「地球規模の社会活動に参加できるよう」など、松山とグローバル社会を切り離さないような表現にするとよいと思いました。

檀会長

- ・ デジタル技術の導入だけでは魅力にならないと思いますので、社会にどう実装するかという視点が大切で、サービスができて初めてよいまちになると思います。SNS等による情報発信は、若者から人気があり、典型的なものだとは思いますが、それ以外でも生活や仕事の場面に ついて何か表現があるとよいと思いました。「グローバル社会で活躍」については、松山に来た外国人との交流・交渉できる人材の育成といったニュアンスが加わってもよいのではというご意見をいただきました。

影浦委員

- ・ ⑦に「イベントやマルシェ、演奏やダンスなど」とありますが、イベントの中に子どもたちに残したい伝統文化や伝統行事、祭りなども含まれるとよいと思いました。含まれているのであれば問題ありません。
- ・ ⑩のデジタル化について、市民のご意見をお聴きすると、自然とデジタルがうまく具合にちょうど良く融合しているのが松山らしさで、これからも残していきたいという趣旨だと感じました。

檀会長

- ・ 確かに、最先端のデジタルと合わせて自然もあるという意見が、若い人から多かったと思います。
- ・ ⑦のイベントには伝統行事は含まれているという解釈でよろしいでしょうか。

伊藤課長

- ・ イベントの中に含まれていますが、見せ方についてご意見を承りたいと思います。

檀会長

- ・ 松山には魅力的な伝統行事も多いと思いますので、書き方を工夫してはどうかという意見でした。

佐川委員

- ・ ⑧に「地元プロスポーツをはじめ、さまざまなスポーツを「する」「みる」「ささえる」人たちを応援することで」とありますが、ここに、プロ選手を見て、憧れて目指していく子どもたちについても、含めていただけたらと思います。

檀会長

- ・ テレビやネットを通じての観戦とは違い、実際に現地で観ることは、子どもを含め、スポーツをする人たちにとって刺激となる部分が大きいと思います。

佐川委員

- ・ サッカーの愛媛FCにはアカデミーがあり、J1やJ2を目指す子どもたちも大勢いますので、松山には選手が育つ土壌があるということも、幅広く皆さんに知っていただきたいです。

檀会長

- ・ こどものころからアカデミーなどの参加できる場があって、世界に通用するような選手が育つというのも、都市の魅力の1つになると思います。

高須賀委員

- ・ ①に「瀬戸内の豊かな自然環境を保全」とありますが、瀬戸内の経済圏全体をまちとして捉えて、世界の都市とつなげ、その中心的な役割を果たしていくのが松山ということだと理解しています。外に対して開かれた都市になると同時に、中山間地域・海・島といった地域資産が空港から比較的近い所に位置する松山で、豊かな自然環境を地域自身が保全するだけでなく、有効活用して守っていく視点が必要だと考えています。瀬戸内は世界的に見ても多島美が美しい地域ですし、噂レベルですが外資系ホテルが狙っているという話も聞こえてきています。そういった瀬戸内の良さを地元の企業がしっかりといかして次世代につなげていく、地域資産として有効活用していく視点を含める必要があると思います。

檀会長

- ・ 瀬戸内の景色の美しさなどが地域資源として観光などでもっといかされるとよいというご意見をいただきました。

高須賀委員

- ・ ①に「瀬戸内の豊かな自然環境を保全」とありますが、瀬戸内の経済圏全体をまちとして捉えて、世界の都市とつなげ、その中心的な役割を果たしていくのが松山だと理解しています。外に対して開かれた都市になると同時に、中山間地域・海・島といった地域資産が空港から比較的近い所に位置する松山で、豊かな自然環境を地域自身が保全するだけでなく、有効活用して守っていく手段が必要だと考えています。瀬戸内は世界的に見ても多島美が美しい地域ですし、噂レベルですが外資系ホテルが狙っているという話も聞こえてきています。そういった瀬戸内の良さを地元の企業がしっかりといかして次世代につなげていく、地域資産として有効活用していく視点を含める必要があると思います。

檀会長

- ・ 瀬戸内の景色の美しさなどがもっといかされるとよいというご意見をいただきました。

倉本委員

- ・ ⑧について、俳句やそれ以外も含めて、芸術について、もう少し言及できるとよいと思います。

檀会長

- ・ たしかに、俳句や文学は松山らしい要素だと思います。

坂谷委員

- ・ ⑩の「住み続けたい」や、まちにプライドを持つという点について、「恋し、結婚し、母になったこの街で、おばあちゃんになりたい」というキャッチコピーが以前使われていたと思います。市民向けの冊子に文字として入れることなどで、婚姻・出産や松山を大切に思う気持ちの醸成につながるのではないかと思います。
- ・ 「人がつながる」の④について、所得の水準が低いことのみが若者の定着にとって課題だというように読めるため、若者が学んだ技能を活かしてチャレンジ出来て、所得も上がって定着するというような文脈にすべきだと思います。

檀会長

- ・ 若者の定着については、結婚などに金銭的不安を感じないこともそうだと思いますが、このまちで暮らす魅力という点で、色々とチャレンジができるという観点が必要だと感じました。
- ・ 松山城のロープウェイ乗り場などで、その言葉を見かけて印象的だと思います。市民にとっては定番の言葉も松山らしさを感じる要素になるかもしれないと思いました。

佐川委員

- ・ 常々、こどもの教育が重要だと思っています。「人がつながる」の①キャリア教育・環境教育などとともに、地元愛を醸成する教育の要素を入れていただきたいと思います。そのような取組を進めることで、どこで活躍していても地元のことを思ってくれる人材の増加につながると思います。

檀会長

- ・ 松山の魅力を早い段階から知って、地元愛を育むとよいというご意見をいただきました。

松村委員

- ・ 「人がつながる」の枠囲みに「年齢や性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず」とありますが、①～⑩に入っていない要素があると感じました。枠囲みの内容は①～⑩を包含した内容なのか、枠囲みの中であって、①～⑩にない、障がい者福祉などは市役所としても重要な項目だと思いますので、項目を足すのか、検討いただきたいと思います。

檀会長

- ・ インクルーシブ社会の観点について、事務局から説明をお願いします。

伊藤課長

- ・ おっしゃられたとおり、枠囲みの部分は「人がつながる」の各項目を包含するものですが、見せ方や書き方についてはご意見を踏まえて検討させていただきたいと思います。

堀副会長

- ・ 「人がつながる」について、インクルーシブ社会の観点で、10年後には外国籍の人も増えていいますので、多言語対応についても触れた方がよいと思いました。

檀会長

- ・ どんな言語を使ってもつながるというのは大切な観点だと思いました。

岩田委員

- ・ 「まちづくりの方向性」について、委員の皆さんから様々な意見があったと思います。要素を網羅するのであれば、これでよいと思いますが、人口が減少する中で、全てを満たすことができない状況になると思います。方向性を示すのはよいのですが、どこかで歯止めをかけるような表現、例えば、財政力指数0.75や財政規律などを記載しておかないと、なんでもありになってしまうことが気になっています。
- ・ 公共事業ではB/C¹以上といった分かりやすい基準がありますが、例えば、四国新幹線はB/Cが1を超えているケースはほとんどないので、何でもありでよいのかと思いました。

檀会長

- ・ 基本構想は、あるべき未来の姿を描くものだと思いますが、財政規律などの歯止めや現実的な落とし込みについて、事務局としてはどのように考えていますか。

伊藤課長

- ・ ご指摘のとおり「まちづくりの方向性」は理想のあるべき松山市の姿を記載させていただいています。すべて実現できるかという難しいものもあると思いますが、今後、基本構想の内容を基本計画や実施計画に落とし込む中で、時間軸の違いなども含めて、市としてはここまではできるということもあると思います。この計画は関わる方全員で目指すものですので、基本構想であるべき理想の姿を記載して、バックカスティングで実現を目指す内容としています。

檀会長

- ・ 基本構想ではある程度夢のある話を描いて、実現可能性を基本計画や実施計画に落としこんでいくというご説明をいただきました。バックカスティング方式は夢を描かないと始まらないので、うまく表現できるとよいと思います。

倉本委員

- ・ 「人がつながる」②の「自分が興味のある活動を楽しみ、好きなことに打ち込める環境が整っています」は必要条件だと思いますが、その前に、能力をさらに伸ばす、育成していくという積極的な内容があってもよいと思いました。日本は失われた30年ということで成長が停滞していますが、アメリカと違って、天才を潰してしまったという過去の反省があると思います。国産OSのTRON（トロン）^{vi}やリクルート、ライブドア、LINEの事例などを踏まえ、天才を推し進めていくような体制が必要だと思います。環境が整っているだけでなく、推進するような表現が入るとよいと思いました。

檀会長

- ・ TRONの話は懐かしいですね。現在はアンドロイドという形で使われていますが、Linux（リナックス）^{vii}の開発者は、フィンランド出身で時間的に余裕がある環境で生まれたと聞いたことがあります。趣味などを楽しめることから一歩進んで、才能や能力を伸ばす環境があるという観点もよいと思いました。

3. 連絡事項

事務局

（事務局説明）

4. 閉会

以上

第2回松山市総合計画審議会委員名簿 出席者名簿

役職	氏名	所属等
会長	檀 裕也	松山大学 副学長
副会長	堀 利栄	愛媛大学 大学院理工学研究科 教授
委員	井口 梓	愛媛大学 社会共創学部 地域資源マネジメント学科 准教授
委員	岩田 和之	松山大学 経済学部 経済学科 教授
委員	大石 紗己	独立行政法人 国際協力機構 愛媛デスク 国際協力推進員
委員	影浦 紀子	松山東雲女子大学 人文科学部 心理子ども学科 准教授
委員	倉本 逸男	公募
委員	坂谷 安遥	公募
委員	佐川 東輝枝	公益財団法人 えひめ女性財団 理事
委員	高須賀 大	公募
委員	高田 名奈	株式会社日本政策投資銀行 松山事務所 副調査役
委員	竹下 浩子	愛媛大学 教育学部 准教授
委員	武田 孝二	全国農業協同組合連合会 愛媛県本部 副本部長
委員	橋本 俊晴	公募
委員	松村 暢彦	愛媛大学 社会共創学部 環境デザイン学科 教授

(敬称略・五十音順)

-
- i 持続可能な社会を構築するため、様々な機会を通じて環境問題について学習すること。
 - ii 持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development)。環境保全のみならず、人権や貧困などの人類の開発活動に起因する様々な問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり豊かな生活ができるよう、身近なところから取り組むことで、持続可能な社会の創り手を育むこと。
 - iii 官民連携 (Public Private Partnership)。公共施設などの建設、維持管理運営などを行政や民間が連携して行うことで、民間の創意工夫などを活用し、財政資金の効率的使用や行政の効率化等を図ること。
 - iv 生物多様性を守っていくために、保全すべき自然環境や優れた自然条件を有している地域を核として、有機的につなぐ取組。ある生物の集団が孤立すると遺伝的な多様性が失われてしまうため、他の集団との繁殖交流するために、移動できる範囲に同じタイプや異なるタイプの自然が複数存在していると、絶滅の危険を減らすことにつながる。
 - v 総便益を総費用で除した費用便益比 (Benefit by Cost)。1 以上であれば一定の費用対効果が得られる事業であるという客観的な評価を行うための分析方法。
 - vi リアルタイムオペレーティングシステム核 (The Real-time Operating system Nucleus)。身の回りのあらゆる場所にコンピューターや情報機器を偏在させ、相互に有機的に連携するユビキタスコンピューティングの構築を目指すプロジェクト。
 - vii OS の一種。無料で使用できるオープンソースのコード。開発者はヘルシンキ出身でアメリカ合衆国のプログラマー。